

告示	番号	70	慢性心疾患
	疾病名	肺動静脈瘻	

肺動静脈瘻

はいどうしょうみゃくろう

概念・定義

病理学的には数種類が区別されるが、病態生理学的に肺動脈が肺毛細血管を經過せずに肺静脈に接続する場合を肺動静脈瘻とよぶ。

解剖：大まかには4種類の病型がある。第一の血管腫型は多数の血管を通じて肺動脈と肺静脈がつながる。第二の動脈瘤型では球型、または拡張した管状血管を通じて肺動脈が肺静脈につながる。第三の肺動脈左房交通症では右肺動脈の枝が直接左房につながる。第四のびまん性の型では、全肺野にわたり、肺動脈抹消で無数の拡張した小血管が動静脈瘻を形成する型である。

血行動態：肺動脈の静脈血が酸素化されずに肺静脈へ流れる。肺動脈圧は正常であるが、まれに肺高血圧を呈することがある。大動脈血の酸素飽和度は様々な程度に低下している。心拍出量は正常であることが多い。

治療は、カテーテルで塞栓術か、手術で肺切除する。近年は、手術はほとんど行われずカテーテル治療が主である。瘻がびまん性の時は、治療困難である。瘻の血管が比較的小さいとき、びまん性でない時は、治療後は予後は良好である。瘻が多数あって治療困難なときは予後不良のことがある。

症状

小児期には無症状で、チアノーゼや胸部エックス線の異常陰影で発見されることが多い。年長になるにつれて、運動時息切れ、頭痛、眩暈、けいれん、失神などの症状をきたすようになり、脳梗塞、脳腫瘍、細菌性心内膜炎、喀血、血胸などを合併することがある

治療

治療は、カテーテルで塞栓術か、手術で肺切除する。近年は、手術はほとんど行われずカテーテル治療が主である。瘻がびまん性の時は、治療困難である

抜粋元：http://www.shouman.jp/details/4_59_81.html